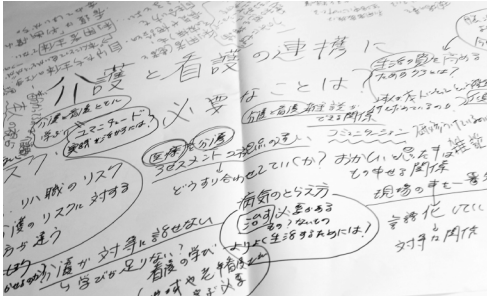


ほっとらいん
ふろむ
ほんごう

カフェの雰囲気でケアを語ろう 第25回未来をつくるkaigoカフェ「看護師ナイト」開催

2014年10月21日(火)、
第25回未来をつくるkaigoカ
フェ「看護師ナイト」が、東京
都千代田区・もとみやセミナ
ールム(株式会社日本医療企画)
にて開催された。

主宰・代表は、高瀬比左子氏
(介護福祉士、社会福祉士、介
護支援専門員)。2000年か
らケアワークの世界に入り未来
を模索するなか、「介護業界を
元気にしたい、そのために自分



なりのアクションを起こした
い」、そして「介護に関する身
近なテーマをもとに、参加者が
肩書などを気にせず自由に語る
ことで、自身の見落としていた
可能性を呼び覚まし、一歩踏み
出すきっかけを作れる場を」と、
2012年7月に立ち上げた。

現在、毎月一回、平日夜に開催
され、毎度の募集定員はすぐ満
席になる盛況ぶりである。参加
者はケアワーカーに加え、医師
、看護師、理学療法士、作業療法
士などの医療職、各種事業関係
者など多岐にわたる。

看介連携に必要なのは？

今回のテーマは「看護と介護
の連携」。イベント前半は、そ
れぞれの領域で活躍する3人の
ベテラン看護師——桑原紀子
(助産師/介護のプロ道場代表)、
小谷洋子(有料老人ホーム看護
主任)、山本千鶴子(高齢者ハ
ンドセラピスト養成教室主宰)
各氏の視点から、「そもそも看
護とは「看護師とは」といった
基盤となる知識や現場での経
験、介護職へのメッセージが語

られた。後半は「介護と看護が
連携するには何が必要か？」と
いうテーマで、参加者5〜6名
程度のテーブルごとに対話・議
論を展開し、最後に参加者全員
がその結果を共有する流れと
なった。講演3氏もそれぞれ
テーブルに加わった。

対話のなかで、「介護も看護
も、共にそれぞれの学びを深め、
同じ方向を向いていくことが必
要」という意見を共通して出し
たテーブルが多かった。また介
護は、現場での気づきと知識と
しての習得、自分たちの目線も
言語化すること、そして看護も
過去の学びや病院での経験から
医療的なリスク回避の視点だけ
ではなく、地域看護や老年看護
といった知識を更新し、生活を
支えるという視点を介護現場に
活かして、そのうえで、利用者
に対するケアの視点をチーム全
体として共通の学びにしてい
くことが必要だと、高瀬代表は後
日に総括した。

「カフェ」での対話を通じて

「最終的な目標としては、利

用者の方がこの歳まで生きてき
てよかった、と思ってもらいた
めに、その人にとっての生活の
質を高めるとはどういうことか
をみんなで考え、試行錯誤しな
がら、その実現に向けて連携し
ていくことが求められていると
感じました。その目標はつい、
自分たちの立場を守ることやプ
ライドによって忘れがちになり
ますが、それをいつも思い出し、
確認し合う必要があると思
いますし、ケアにおけるフラッ
トな対話ができるためには、日
ごろから雑談ができるような関
係性の構築も大切なことだと感
じました。

まずは相手の価値観を理解
し、違いを受け入れることで、
やっとスタートラインに立てる
のかもしれない。介護も看護
も、それぞれの役割を果たした
がら、これから求められる介護
の未来へ向けて、共に学び、共
に歩んでいけるパートナーにな
ることができたらとの思いを新
たにしました。素敵な気づきを
いただき、本当に感謝します」
(高瀬)。



なお、本イベントを通して導
入された、お茶を飲みお菓子を
食べながら寛いで、喫茶店のよ
うな自由な雰囲気の中で互い
に向き合って話すという「ワール
ドカフェ形式」(Brown-Jsaacs
が提唱、1995年)は、堅苦
しい勉強会ではなく、居心地の
よい「カフェ」での対話から得
られる気づきや学びから新たな
未来をつくっていくという趣
旨である。

問 kaigoカフェウェブサイト
<http://www.kaigocafe.com/>
フェイスブック「未来をつくる
kaigoカフェ」公式ページ
<https://www.facebook.com/mirakaigocafe>